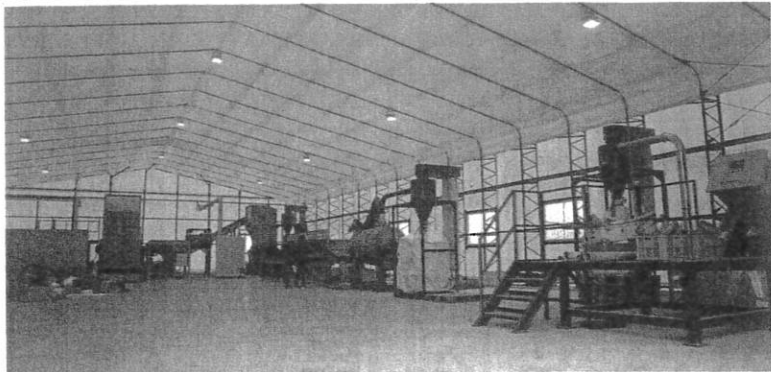


三紅

津田マテリアルセンターを竣工

硬質プラなど有価調達、原料に再資源化

徳島市の一般廃棄物 視社長、☎088・6
の中間処理などを担う 63・1314)は新
三紅(徳島市、阿部大 間に、PP・PEとい
った硬質系
のMIXプ
ラやPVC
を買い取
り、高品質
な原料にし
サイクルす
る「津田マ
テリアルセ
ンター」を立ち上げた。
総投資額は約3億20
00万円。事業再構築
補助金の採択を受け、
ENMA JAPAN
(埼玉県三芳町)の破
砕・分別・洗浄設備一
式を導入した。産廃の
中間処理業者より分別
されたPP・PE・P
VCの他、物流業・製
造業で排出されるパレ



津田マテリアルセンターの内観



再資源化した原料は国内プラメーカーへ供給

ット・端材等を調達し、再資源化したものを国内のプラスチックメーカー向けに販売する。製造量は年間1200トを目指す。
ENMA JAPANが担当した設備ラインは、硬質プラを破砕後、磁選機で金属を除き、粉砕(10ミミ以下)・比重分離・脱水する工程となっている。パレットをそのまま投入できる間口を設けるなどオペレーションを一人で完結でき、省人化にも特化した仕様だ。安定した操業体制を構築後は、3人体制で稼働する方針とした。また、PVCについては、フレーク状に細かく破砕する個別の設備を設けた。メーカーによる加工委託にも対応する。
津田マテリアルセンターの敷地面積は約3300平方メートルで、建屋面積は700平方メートル。1月16日から本格稼働しており、稼働当初、持ち込まれたものに不純物が混じっていたが、受け入れる対象を説明していくうちに分別の精度が高まってきたという。同社は、「ABS樹脂やPSといった素材の見分けは難しい。色であったり、硬質か軟質かという見分けの他、シンブルに水に浮かぶかどうかという判断で受け入れてい

る」とした。収集エリアは、県内を中心に、今後は四国および西日本エリアを視野に調達先を拡大していく。
同社の阿部崇仁専務は、「徳島市では現状、硬質プラの処分は埋め立てが主流で、そうしたものも再資源化できたらと考えており、行政に提案している最中だ。将来的に、同市を含む近隣の自治体と連携し、プラ新法に対応したマテリアルサイクルを当施設で推進していきたい」とし、「まずは月間100ト程度の製造を進める。プラ資源の需要の高まりを受け、ハイグレードな原料を安定供給していく」と抱負を語った。